

クリエイティブな映像制作で インターネットの安心安全を守る！

1 目的・概要

現代社会においてインターネットは老若男女問わず生活に欠かせない非常に便利なツールとなりましたが、同時に詐欺やインターネットならではのトラブルや事件の被害件数も年々増加しています。

そこで本プロジェクトではインターネット上のトラブルや事件から多くの人の安心安全を守ることを目的に、トラブル・事件回避のメッセージを含む映像作品の制作・発信を行ってきました。

映像制作においては多くの人に興味・関心を持ってもらい、視聴者がインターネットトラブルや事件に対して自分事として考えてもらうために、パロディや映像技法を織り交ぜた啓発動画にこだわって制作しました。

そして私たちが制作した動画を1人でも多くの人に見てもらい、インターネット上でのトラブルに対する危機意識を向上させることが、インターネットの安心安全な利用に繋がると考え、地域との連携や発信力の強いコンテストへの出展など様々な手段を用いて広報・啓発活動を行いました。



Annual Schedule

2021年	4月	チームビルディング、今後の活動についての話し合い
	5月	グループに分かれて動画の企画書制作・プレゼン、企画のブラッシュアップ
	6-8月	動画の企画・撮影と編集作業
	10月	動画の企画・撮影と編集作業、京都府警察との打ち合わせ、コンテストへの出展
	11月	動画の企画・撮影と編集作業、コンテストへの出展
	12月	アンケート調査の実施、学内における立て看板の設置
2022年	1月	京都府警察表彰式

2 成果達成度

・映像制作

SNSでの誹謗中傷、フェイクアラート詐欺、アカウント乗っ取り被害、フィッシング詐欺、自撮り被害をテーマに1年間で5本の作品を制作しました。さらに、ACジャパン広告学生賞に向けて「インターネット犯罪の加害者にならない」または「被害者にならない」をテーマに動画を2本制作しました。

SNSでの誹謗中傷をテーマにした動画ではマルチスクリーンという映像技法を使い、自撮り被害をテーマにした動画ではコマ撮りで動画を撮影するなど映像技法に工夫を凝らすことで、視聴者の目を惹く映像に仕上げました。

またフェイクアラート詐欺をテーマにした動画ではスポーツ実況のようなスピード感、アカウント乗っ取り被害をテーマにした動画では心靈動画のような恐怖感、フィッシング詐欺をテーマとした動画では天気予報を模したパロディ調にすることでコミカルさを演出し、楽しんで啓発動画を観てもらえるように工夫をしました。



・広報・啓発活動

作成した動画をより多くの人に見てもらう機会を作るため大きく分けて3つの広報活動を行いました。

1つ目は学内での広報活動です。SNS利用率の高い学生をターゲットとした動画を届けるために、今出川キャンパスの正門にQRコードを記載した立て看板の設置を行いました。

2つ目は地域での広報活動です。京都府警察に協力を要請し、2本の動画を京都府警察公式YouTubeチャンネルにて掲載して頂きました。またこれらの動画の掲載に対して京都府警察から感謝状を頂きました。1月12日に行われた感謝状授与式ではマスコミの取材も受け、制作した動画が多くの人の見ってもらえる機会を増やすことが出来たと考えています。

3つ目は動画コンテストへの出展です。地域を超えて全国のインターネット利用者に作成した動画を見てもらう機会を作る為に総務省主催の『動画フェスタ2021』、トレンドマイクロ社主催の『What's your Story?』、『ACジャパン広告学生賞』の3つのコンテストに出展しました。『What's your Story?』では優秀賞を頂きました。また、『動画フェスタ2021』では2作品がファイナリスト作品に選ばれ、最終結果は1月下旬に発表される予定です。



・アンケート調査

制作した動画の意図は視聴者に伝わっているのか？動画を見て視聴者のトラブルに対する意識は変

化したのか?など動画の効果を調査するためにアンケート調査を行いました。結果としては5作品で取り扱った全てのトラブル・事件に対して約90%の人が、危機意識が向上したと回答しました。また私たちが注力した表現方法に関しても約77%の人がユニークだと感じ、約75%の人が最後まで飽きずに見ることが出来たと回答しました。このアンケート結果から私たちの制作した動画のメッセージ性やクリエイティブ性が的確に視聴者に伝わり、インターネットトラブルの啓発に効果がある作品に出来たと感じています。

3 プロジェクトを通じて

今回のプロジェクトを通じて私たちは多くのことを学びました。まず、インターネット犯罪は自分たちが想像するより近くで起こっていることを再認識しました。このプロジェクトに参加するまではインターネット犯罪はどこか他人事のように考えていました。しかし動画制作にあたって自分たちで実際に起こった事件の事例を調べたり、京都府警察の方のお話を聞いたりすることで、その恐ろしさを理解し、インターネットとの向き合い方を見直すことが出来ました。

また、皆で協力して1つの作品を創り出す面白さを学びました。どうしたら分かりやすくメッセージを伝えられるのか、視聴者が最後まで関心を持ってもらうためにどんな工夫を施すべきかなど色々なものを参考にしながら、議論を重ねて1から作品を作り上げてきました。今まで交わることのなかった学部や学年の違うメンバーが集まり企画を出しあって議論することは簡単ではありませんでしたが、それ以上に自分とは違う考えに触れることが出来る楽しさを感じました。この経験は社会に出てからも役に立つ良い経験になったと感じています。



編集後記

このプロジェクトは今年から始まった新しいプロジェクトであり、最初はどのように進めていけばいいのかわからない部分もありました。ですがメンバー全員で力を合わせることで、最終的には納得のいく作品を作ることが出来ました。私のような動画制作をしたことがない素人でも、このプロジェクトに参加することで普段では出来ない経験を沢山させてもらいました。コロナ禍で制約が多い1年でしたが、学びの多い1年にすることが出来たと感じています。最後になりましたが、一年間私たちのプロジェクトにご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

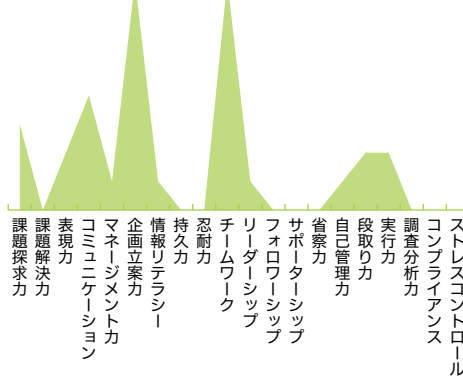
プロジェクトメンバー

山本 凜(社会3) 今井 貴子(社会2) 松尾 暖花(法3) 伊藤 風暉(経済4) 上甲 佳乃子(経済4)
砂川 瑠乃(経済4) 渡部 姫香(経済4) 酒井 良晴(政策2)

プロジェクト活動 アンケート集計結果

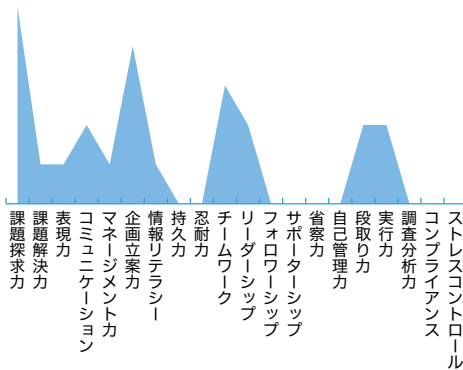
授業開始時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

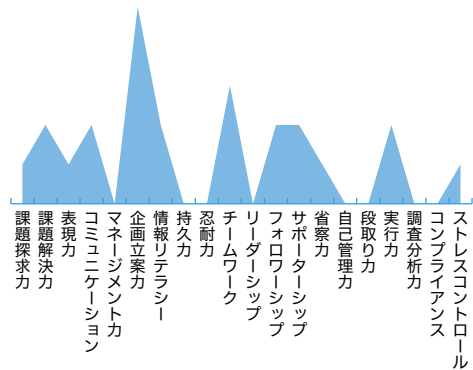


春学期終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

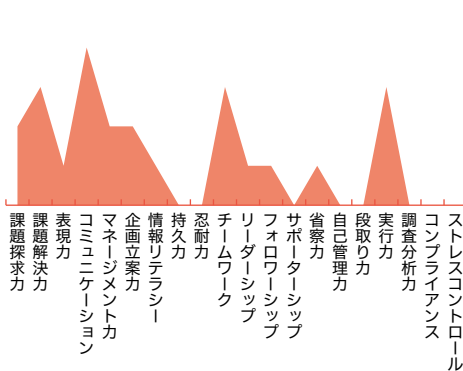


Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい



授業終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい

